

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム 柊 1階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和1年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600350-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人が不安や寂しさがなく穏やかに暮らせるように環境作りに配慮しています。個別の外出支援など一人一人に寄り添った支援を目標にしています。敷地内には、花壇や畑があり早春から花を楽しむ、秋にはジャガイモなどの野菜が楽しめます。近隣に協力病院があり冬でもロードヒーティングが備わっていますので安心して通院する事ができます。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

青葉駅前の閑静な住宅地の中にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には病院や高齢者向け施設、コンビニエンスストアなどがあり、公園も近い。建物は、中庭を中心とした回廊型で、居間や食堂、居室が周りに配置されている。トイレが居間や食堂から見えにくい場所にあり、プライバシーに配慮した造りになっている。床暖房で暖かく、共用空間、居室とも清潔に保たれている。職員は理念をよく理解し、親切な言葉がけで利用者に接している。職員間の協力体制が整い、職員の休暇の取得などの面でも配慮され、働きやすい環境が整備されている。地域との関わりの中では、老人クラブの交流会に利用者が参加したり、歌やメイクのボランティア、保育園児が事業所を訪れ、利用者と交流している。近くに住む一人暮らしの方が気軽に事業所に訪ねてくることもある。ケアマネジメントの面では、毎月モニタリングを行い、介護計画の見直しの際は、アセスメントシートの作成、カンファレンスを経て、計画を更新している。見直しの際の書類も分かりやすく整備されている。排泄の自立支援の面では、自立に向けてトイレで排泄できるよう適切な誘導を心がけ、排泄用品の使用がなるべく少なくなるよう調整している。職員全体のきめ細かな支援のもと、利用者や家族が安心できるグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は廊下、休憩室に提示し目に入るようにし実践に繋げている	数年前に見直し作成した事業所独自の理念の中に地域密着サービスの意義を踏まえた文言を入れている。理念を玄関や休憩所、事務所に掲示するとともに、職員は理念を記載したカードを携帯し、共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事にできる範囲で参加。町内の保育園とは時々交流し親睦を深めている	近くの集会所で行われる老人クラブの交流会に利用者が参加している。また、事業所の敬老会に地域住民の参加を得ている。歌やメイクのボランティア、近くの保育園児などが事業所を訪れ、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には挨拶や近況報告等話し施設の説明を求められることもあり対応している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容、取組等説明。理解と協力をお願いし意見をいただきながらサービス向上に繋げている	運営推進会議を2か月ごとに開催している。市や地域包括支援センター職員、民生委員、老人クラブ役員の参加を得ているが、近年は家族の参加が得られていない。議事は活動報告が中心となっている。議事録を家族に送付している。	報告事項のほかにテーマを計画的に設定し、話し合いを行うことを期待したい。家族の参加が難しい場合は、普段から家族の要望や不安なことを聞いて会議で取り上げ、その結果を家族に報告するなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出時や相談等あった時は助言をいただき協力関係を築くように心がけている	運営推進会議に市や地域包括センター職員の参加を得て情報提供を受けている。管理者は年2回、市内のグループホーム連絡会に参加し、行政担当者や情報交換している。法人のエリアマネージャーを通して市役所に相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月不適切委員会を開催し日々取り組んでいる	身体拘束を行っておらず、禁止行為を示したマニュアルを用意し、定期的に勉強会を行っている。身体拘束の内容を含む「不適切ケア防止委員会」を1か月に一度開催している。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りすることができる。出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の中で職員間にて注意し合っている		

ふれあいの里グループホーム柊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対しては学ぶ機会がまだありません。必要性があれば活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みながら説明し不安や疑問が無いとその都度確認しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。契約時に御意見、苦情の窓口の説明をしています	家族の来訪時に意見を聞き、得られた意見を「家族ノート」や「支援経過記録」に記載し、共有している。法人で家族へのアンケートを定期的実施している。ホーム便り「ほのぼの柊」を毎月発行し、利用者の様子を家族に知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンス時や申し送り時に質問を聞いたり提案を聞いたりし代表者の情報を伝えたりしています	月1回、ユニットごとのカンファレンスを行い、職員同士が活発に意見交換している。職員の意見をもとに、業務の改善を行っている。職員は、お便り作成、消耗品管理、室内装飾、事故対策などの係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時より労働時間の短縮や賃金引上げ等代表者は、努力しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングでの研修など導入し研修の機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修での予算等同業者と交流する機会を提供してくれています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為本人が不安な事を口にするのは少ない為本人の行動や表情等で感じ取り安心を与えるよう配慮しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの困っている事、不安な事に耳を傾けながらこちらの要望等も合わせ小さい事も話合いながら関係作りに配慮しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の望み、御本人の望みを取り混ぜながら社会資源も視野に入れ対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場になりできる限り寄り添い穏やかに過ごせるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応できない事があれば、家族に相談し対応していただいたり、行事等でご本人と家族が共用できる時間をもうけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたら居室で過ごしてもらったりし再度また面会に来てもらえる様対応している	2名ほどの利用者に友人や宗教関係の知人が来訪している。「ふれあいサロン」がある集会所も利用者の懐かしい場所の一つである。利用者が昔なじんでいた商店街付近や地元のお菓子店に連れていくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め居間や食堂の座席の工夫や皆で関わりを持てるようレクリエーションを行ったり工夫している		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも連絡があれば相談や支援にあたり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の中でちょっとした言葉等の中に支援を本人本位に検討している	2割ほどの方は思いや意向を表出でき、難しい方も問いかけの反応や表情から把握している。趣味や嗜好などの情報もアセスメントシートに追記したり、欄を設けて記入を行う方針としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や御本人の話などから生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活の流れや出来事等記録に努め職員間に情報の共有をしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等でご本人様の計画の見直しや意見交換を行い現状に即した介護計画を作成できるようにしている	介護計画を3か月ごとに見直し作成している。計画目標に沿って毎月モニタリングを行い、会議を経て計画を更新している。最近、日々の記録をパソコン上で行う方式となり、目標に沿った記録をまだ適切に行えていない。	介護計画の見直しに活かすため、法人内の他の事業所なども参考にして、介護計画の目標項目に沿った日々の記録が行えるよう取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、更に送りノートにて気づきや実践した内容を記録し見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、臨機応変なサービスに取り込んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民等交流あり暮らしを楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先し、協力病院やかかりつけ医に通院支援している。個々のバイタル表を作成して協力病院に持参している	ほとんどの利用者は隣接する協力病院で定期受診を受けている。皮膚科と歯科は往診がある。その他の通院は家族が対応できない場合は事業所で通院を支援している。個人ごとに通院(往診)記録を作成している。	

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護師による健康管理を行なっています。その際に相談やアドバイスをいただいています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、面会に行き情報収集したりしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し了解を得た上で契約している	利用開始時に「重度化した場合の対応に関する指針」を家族に説明し、署名捺印を得ている。現状は事業所での看取りを行っておらず、重度化した場合は移転先を紹介するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行なっていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災の訓練は、実施済。訓練時地域の方に参加もあり協力体制はある	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署の指導や地域住民の参加も得られている。災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、職員の救急救命訓練の受講はまだ一部にとどまっている。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。また、地震の際の初期対応やケア場面別の対応について、職員間で確認しておくことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や態度など尊厳を守るよう心がけています	利用者への呼びかけは苗字に「さん」づけとし、新人研修で不適切ケアや言葉かけを指導している。申し送りは部屋番号で行い、書類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや希望があれば都度対応し、その人らしさを元に自己決定を委ねています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望は、できる限り優先し、個々を大切に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカットしたり希望によりネイルをしたりおしゃれできるように支援している		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米や粥等希望により提供。食べられない物があれば代替品にて提供している。準備や片付け等本人の意思にて行なっている	法人作成の献立を基本に、フリーメニューの日を設けておにぎりや冷やしラーメン、鍋料理などにもすることもある。外食でレストランのバイキングを楽しんだり、出前の寿司や蕎麦などを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録に残しており水分量が少ない等随時一人一人に配慮しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後口腔ケアの支援を一人一人順番に行なっています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアから、御本人の状態を把握しさりげなく誘導したり御本人に合わせた支援をおこなっています	全員の排泄を記録して適切な声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間のみ、ベッド上で排泄用品を交換することもある。自分で行える行為を増やせるように、下着類や排泄用品を工夫して自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動等取り入れながら主治医から処方された薬も服薬し予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴できるよう支援しています	好みの湯加減に配慮し、日曜日以外の午後の時間帯で入浴を支援している。入浴を拒む場合は、声かけする職員を交代したり時間帯などを変更している。歌をうたいながら入浴を楽しんでいる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人のペースにて休息したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時にはきちんと服用できるよう支援し症状の変化があればその都度対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の張り合い、得意な事、できる事を見極め楽しんで行なえるよう支援しています		

ふれあいの里グループホーム柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出したり散歩に行ったり支援しています	散歩チェック表を作成している。普段は車椅子の方も一緒に周辺を散歩したり、地域のふれあいサロンに出かける利用者もいる。中庭で外気浴したり、お茶を楽しむこともある。花見で登別の温泉街に出かけたり、恵庭の道の駅や「ゆにガーデン」などに外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが使用する機会がない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援し、職員が促す事もあります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に飾りを替え季節感を出したり季節の行事を開催している。施設内の気温、湿度等に配慮しています	中庭を中心にした回廊型で、居間と食堂が独立した広々とした共用空間になっている。トイレは居間や食堂から見えにくい場所にあり、プライバシーに配慮した造りになっている。壁に季節の飾りや行事の写真を掲示したり、保育園児から送られた絵手紙や作品などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が分かれており一人になれたり気の合う同士になれる空間があります		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置くように家族と相談し居心地が良く過ごせるよう支援しています	クローゼットを備えた居室に、タンスや椅子などを使いやすいように配置している。縫いぐるみや自分で作った作品などを身近に飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。家族の写真や保育園児からのプレゼントなどを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっています。廊下には危険が無いよう物の配置にも工夫しています		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム 柊 2階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和1年11月5日	評価結果市町村受理日	令和1年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600350-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人が不安や寂しさがなく穏やかに暮らせるように環境作りに配慮しています。個別の外出支援など一人一人に寄り添った支援を目標にしています。敷地内には、花壇や畑があり早春から花を楽しみ、秋にはジャガイモなどの野菜が楽しめます。近隣に協力病院があり冬でもロードヒーティングが備わっていますので安心して通院する事ができます。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は廊下、休憩室に提示し目に入るようにし実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事にできる範囲で参加。町内の保育園とは時々交流し親睦を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には挨拶や近況報告等話し施設の説明を求められることもあり対応している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容、取組等説明。理解と協力をお願いし意見をいただきながらサービス向上に繋げている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出時や相談等あった時は助言をいただき協力関係を築くように心がけている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月不適切委員会を開催し日々取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の中で職員間にて注意し合っている		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対しては学ぶ機会がまだありません。必要性があれば活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みながら説明し不安や疑問が無いかなど都度確認しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。契約時に御意見、苦情の窓口の説明をしています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンス時や申し送り時に質問を聞いたり提案を聞いたりし代表者の情報を伝えたりしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時より労働時間の短縮や賃金引上げ等代表者は、努力しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングでの研修など導入し研修の機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修での予算等同業者と交流する機会を提供してくれています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為本人が不安な事を口にするのは少ない為本人の行動や表情等で感じ取り安心を与えるよう配慮しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの困っている事、不安な事に耳を傾けながらこちらの要望等も合わせ小さい事も話し合いながら関係作りに配慮しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の望み、御本人の望みを取り混ぜながら社会資源も視野に入れ対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場になりできる限り寄り添い穏やかに過ごせるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応できない事があれば、家族に相談し対応していただいたり、行事等でご本人と家族が共用できる時間をもうけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたら居室で過ごしてもらったりし再度また面会に来てもらえる様対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め居間や食堂の座席の工夫や皆で関わりを持てるようレクリエーションを行ったり工夫している		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡があれば相談や支援にあたり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の中でちょっとした言葉等の中に支援を本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や御本人の話などから生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活の流れや出来事等記録に努め職員間にて情報の共有をしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等でご本人様の計画の見直しや意見交換を行い現状に即した介護計画を作成できるようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、更に申し送りノートにて気づきや実践した内容を記録し見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、臨機応変なサービスに取り込んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民等交流あり暮らしを楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先し、協力病院やかかりつけ医に通院支援している。個々のバイタル表を作成して協力病院に持参している		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護師による健康管理を行なっています。その際に相談やアドバイスをいただいています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、面会に行き情報収集したりしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し了解を得た上で契約している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行なっていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災の訓練は、実施済。訓練時地域の方に参加もあり協力体制はある		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や態度など尊厳を守るよう心がけています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや希望があれば都度対応し、その人らしさを元に自己決定を委ねています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望は、できる限り優先し、個々を大切に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカットしたり希望によりネイルをしたりおしゃれできるように支援している		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米や粥等希望により提供。食べられない物があれば代替品にて提供している。準備や片付け等本人の意思にて行なっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録に残しており水分量が少ない等随時一人一人に配慮しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後口腔ケアの支援を一人一人順番に行なっています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアから、御本人の状態を把握しさりげなく誘導したり御本人に合わせた支援をおこなっています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動等取り入れながら主治医から処方された薬も服薬し予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴できるよう支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人のペースにて休息したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時にはきちんと服用できるよう支援し症状の変化があればその都度対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の張り合い、得意な事、できる事を見極め楽しんで行なえるよう支援しています		

ふれあいの里グループホーム柘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出したり散歩に行ったり支援しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが使用する機会がない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援し、職員が促す事もあります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に飾りを替え季節感を出したり季節の行事を開催している。施設内の気温、湿度等に配慮しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が分かれており一人になれたり気の合う同士になれる空間があります		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置くように家族と相談し居心地が良く過ごせるよう支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっています。廊下には危険が無いよう物の配置にも工夫しています		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム 柊

作成日：令和 1年 12月 5日

市町村受理日：令和 1年 12月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議時に計画的にテーマを設定し話し合いを行なう	市役所、包括、町内会と相談し何をテーマにしていくか決めていきたい	2019年12月の運営推進会議にて検討する	1ヶ月
2	26	介護記録の中に介護計画が反映されておらず記録にて介護計画が実行されているのか	介護計画にきちんと反映するようにする	本社に確認しわかり次第実行する	1ヶ月
3	35	全職員が3年に1回程度救命講習の講習を受講していない	職員全員救命講習を受講する	計画的に苫小牧市消防に確認し随時受講していきたい	1ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。